

e-dream-s 通信

No.49 発行：2004年10月10日 特定非営利活動法人 イー・ドリームズ

目次

1. アジアツアーの効用 辻荘一 p.2
2. ガンジスの風 井川好二 p.4
3. ライブドア？ 楽天？ それとも.... 中川房代 p.9
4. 日露戦争100周年 安田 悠 p.11
5. お知らせ p.12



インド・南部 巡礼の準備

© e-dream-s

アジアツアーの効用

e-dream-s 代表理事 辻 荘一

1冊の本を読み始めたらその本だけを最後まで一気に読み通す、とすることが出来ない。途中でつい他の本に手を出し、またその途中でさらに他の本に手を出すとすることを繰り返し、5～6冊の本を読書中などと言うことになってしまう。さらにこれにマンガや英語の本が加わるので、10冊近くの読みかけ本が枕元や鞆の中やトイレにあるということになる。

例えば今は、「世に棲む日々¹ (全4巻)」「翔ぶがごとく² (全10巻)」「Timeline³」「スウィートデリバリー⁴」「板谷バカ三代⁵」「How Mind Works⁶」「人間臨終図鑑⁷ (3巻)」「短歌があるじゃないか⁸」「The Guns of August⁹」である。

その中でも特に司馬遼太郎の3冊「世に棲む日々¹⁰」「翔ぶがごとく」「ロシアについて」と山田風太郎の「人間臨終図鑑」にはまっている。

それには理由がある。アジアツアーである。

前回「アジアツアーの快樂は、脳内世界地図を描く快樂だ」と書いた。そして「この脳内世界地図はジグソーパズルに似ている」とも書いた。これはその通りであるがしかし、実はこのアナロジーは私の脳内で起こっていることの一部しか表していない。

世界は刻一刻と流動している。第2次世界大戦後ソビエト連邦が確固として存在し東西冷戦が続いている間は、世界地図は何十年もそのまま使い続ける事が出来た。しかし、今は10年前の地図は役に立たない。10年後には今の地図が役に立つ保証はない。したがって現代版脳内世界地図のジグソーパズルが完成してもそれは、10年前10年後の世界をそれで読み解く事が出来るというわけではない。

例えば私のジグソーパズルの最新のピースはロシアだが、そのロシア発展途上国化しているのはそれなりの理由があつてのことだ。歴史を知らなければ、その理由は分からないのである。

アジアツアーの回数を重ね、ジグソーパズルがだんだん完成に近づき、その全体像がおぼろげながらも見え出すと、なぜそのような模様になっているのかが気になり出す。過去や未来のジグソーパズルの模様も気になるようになる。そしてそれを考えるためには過去にさかのぼらなければならない。

司馬遼太郎の2作品は、小説ではあるが小説としては読んでいない。歴史を見て行くために読んでいる。

¹ 「世に棲む日々」司馬遼太郎 出版社：文芸春秋 文春文庫

² 「翔ぶがごとく」司馬遼太郎 出版社：文芸春秋 文春文庫

³ 「Timeline」Michael Crichton 出版社：Ballantine Books

⁴ 「スウィートデリバリー」鴨居まさね 出版社 集英社 ヤングユーコミックス

⁵ 「板谷バカ三代」ゲッツ板谷 出版社：角川書店

⁶ 「How Mind Works」Steven Pinker 出版社：W W Norton & Co Inc

⁷ 「人間臨終図鑑」山田風太郎 出版社：徳間書店

⁸ 「短歌があるじゃないか」穂村 弘 沢田 康彦 東 直子 出版社：角川書店

⁹ 「The Guns of August」Barbara W. Tuchman 出版社：Ballantine Books

「世に棲む日々」は幕末、「翔ぶがごとく」は明治初期の話であるから、当然ロシアについての記述も多い。そしてそれがアジアツアーで獲得した最新ピースの「ロシア」と反応し合うのである。韓国が出てくれば、韓国のピースと反応する。これがなかなかの快感なのである。

山田風太郎の「人間臨終図鑑(3巻)」は、古今東西の有名人の死に様を集めた労作である。また臨終の様だけだけではなく、その人の業績やエピソードも山田風太郎の人物月旦¹¹とともにまとめてあって、例えばトイレに置いてちょっと読むのに最適な本である。そしてこれがまた、アジアツアーのピースと反応する。伊東博文について読めば韓国のピース、孫文について読めば中国のピースと反応するといった具合だ。

元来 SF 少年で地理や歴史というものを通り一遍以上の興味を抱いたことのない私が、歴史物を読んで喜びを感じる等と言うことになっているのは、アジアツアーの効用以外のなにものでもないのである。

¹¹ 月旦(月旦評に同じ)〔後漢の許劭(きよしよう)が毎月の一日に郷里の人々の人物論をして楽しんだという、「後漢書(許劭伝)」の故事から〕人物の批評。

ガンジスの風

e-dream-s 顧問 井川 好二

「センセ、来年の夏は印度、ですか？」
「そう思てる。けど、話が早いな？」
「巷の噂、ちょっと、小耳に挟みましたん」

印度へ行かないと、とって久しいが、果たせないでいる。大文明の発祥地の一つだけに歴史は長く、文化も深い。訪れるべきポイントは無数にある。とても一回の訪問で充分とは思わない。気持ちは重いが、せめて3回行けば、少しは分かった気になるのだろうか？イヤイヤ。

「この季節、やっぱり温かいもんが、宜しいやろ」と、運ばれてきたのは、秋草の蒔絵の椀に入った、飛龍頭¹²と初茸¹³の吸物。飲みはじめた菊姫の山麩¹⁴を、グッとあおって、椀の蓋を取ると、湯気の中、芽葱¹⁵の青が清々しい。

「飛龍頭の中に、蟹どす」
「ほお、こりゃ、美味そうや」

¹² 精進料理に欠かせない「ひろうす」は、1697年に書かれた和漢精進新料理抄にも載っているから、ずいぶん古くからある食べ物である。「ひろうす」の語源は、ポルトガル語のフィリョース (filhos) である。ただし、本家フィリョースは、卵と小麦を混ぜて油で揚げた菓子らしい。よって、「ひろうす」を、飛龍頭とか飛龍子と表記するが、これらは、当て字である。ただ、店によっては、龍にちなんで、ゆり根 (うろこ)、ぎんなん (目玉)、ささがきごぼう (ひげ) を入れるところもある。

<http://bouzu893.hp.infoseek.co.jp/yomoyama/yomo27.html>

¹³ はつ たけ【初茸】担子菌類ベニタケ科のきのこ。日本特産で、夏から秋にかけ、アカマツ林内の地上に発生する。全体は淡赤褐色、傷つけると青藍色に変わるため、普通は所々がしみになっていることが多い。傘は径三～一五センチメートルで濃色の環状紋があり、初め扁平、のち縁はやや下に巻くが中央がくぼみ、漏斗状になる。柄は中空で、太いがもろい。広く食用とされる。和名は、秋の早い時期に採れるところからという。あいたけ。

《季・秋》【SuperNipponica2003】(C)小学館

¹⁴ 菊姫 山麩吟醸 原酒: 今冬に仕込まれた、人気の菊姫山麩吟醸の原酒です。通常山麩吟醸は1年以上の熟成を経て蔵出しされます。しかし、この菊姫山麩吟醸原酒は、熟成前のお酒です。新鮮な旨みと香り、個性の強さと逞しさが際立つ原酒です。ロックでもいけます。 <http://homepage1.nifty.com/konchikitai/kikuhimefan.htm>

¹⁵ ねぎの種を床上にまき、針のように細く8センチほどに成長したものを芽物として用いる。 <http://page.freett.com/abus/bg1-025.htm>

石川の酒、菊姫のキリリとした味わいと、椀の暖かい茫洋とした広がり相性が良い。秋は、日本酒の旨さが冴える季節。あるいは、その旨さを引き出す食べ物が多い。

印度行のポイントの一つは、若い頃耽読した三島由紀夫である。三島晩年の4部作「豊饒の海¹⁶」の第3巻「暁の寺」の中で、中年男となった主人公の本多は、タイのバンコックから、印度のカルカッタ¹⁷へと旅行し、ヒンドゥー教の聖地・ベナレス¹⁸を訪れる。そのガンジス河のシーンは、感動深い。

¹⁶ 豊饒の海 三島由紀夫の長編小説。1965年(昭和40)9月から『新潮』に連載、69～71年新潮社刊。全四巻。各巻が独自の主題をもつ。第一巻『春の雪』は悲恋を、第二巻『奔馬』は政治的叛逆の悲劇を扱っていて、それぞれ「たおやめぶり」と「ますらおぶり」の精神を描く。またこの四部作は、輪廻転生(りんねてんしょう)によって主人公が夭折(ようせつ)して生まれ変わるという構成をとっている。第三巻『暁の寺』ではタイの王女として現れ、第4巻『天人五衰』では4人目の生まれ変わりの少年が本物でないことがわかる。結末の部分に感じられる虚無感のうちに、作者の晩年の心境の一端があったとみられる。三島の自決に至る最後の作品で、後期の代表作に数えられる。磯田光一

【SuperNipponica2003】(C)小学館

¹⁷ カルカッタ Calcutta インド東部、西ベンガル州の州都コルカタ Kolkata の旧称。イギリス植民地時代より長くカルカッタとよばれてきたが、1999年に古来の呼び名であるコルカタに名称を変更した。コルカタ【SuperNipponica2003】(C)小学館

¹⁸ ベナレス Benares インド北部、ウッタル・プラデシュ州東端にあるワラーナシの旧称。ワラーナシ【SuperNipponica2003】(C)小学館

ワラーナシ Varanasi インド北部、ウッタル・プラデシュ州東端にある都市。ヒンドゥー教の一大聖地。この付近で南から北へ流れるガンジス川の西岸に位置する。人口110万0748、周辺部を含む人口121万1749(2001)。ガンジス川中流域では最大の都市である。中世にはバナレス Banares、イギリス領時代にはベナリーズ Benares とよんだが、独立後古代都市名を復活させた。日本ではベナレスとして知られる。市内にはビシュワナート寺院やドゥルガ寺院など大小1500以上といわれるヒンドゥー教寺院があり、年間100万人を超える参拝者が訪れる。信徒はガンジス川沿いに5キロメートルにわたって連なるガート(沐浴(もくよく)場)で、東岸から昇る太陽に向かって身を清めたのち寺院に参拝する。市の中心部には迷路のように入り組んだ狭い路地に、土産(みやげ)物店などが建ち並び、門前町を形成している。紀元前2世紀ごろ、すでに原始ヒンドゥー教の中心都市として栄え、以来今日までヒンドゥー教の信仰、文化の中心地としての地位を保ってきた。1193年ゴール朝に征服され、以後500余年イスラム教徒に支配されたが、ムガル帝国の衰退とともに、1725年ヒンドゥー教徒のマンサ・ラームが支配権を握った。1738年その子バルワント・シンはワラーナシ藩王国を成立させ、この地域一帯を支配した。いまでもガンジス川の対岸に残るラームナガル城は、当時建設されたものである。しかし19世紀初頭からはイギリスの保護下に入り、イギリス軍が市街地の北に駐屯地を開設した。市の南郊にはインド六大国立大学の一つワラーナシ・ヒンドゥー大学(1916年創立)の広大なキャンパスが広がっている。同大学は市内の古い伝統をもつサンスクリット大学とともに、インド哲学や文化研究の中心的学術的機関として、世界各地から研究者を集める。また北郊7キロメートルには、釈迦(しゃか)が初めて仏教を説いた地として有名なサールナート(鹿野(ろくや)園)がある。なお特産品としては手織りのサリーが有名である。中山修一

【SuperNipponica2003】(C)小学館

「水は不死の命に充てり。
水は身の護りなり。
水には癒しの靈驗あり。
水の威ある力をば
常住忘るることなかれ。
水は心身の薬なれば」

と謳われてみるとほり、祈りを以て心を清め、水を以て身を潔めるヒンヅーの儀禮は、ここベナレスの數々の水浴階段(ガーツ)に於いて極まるのである。(「暁の寺」p. 62¹⁹)

と三島は書いている。その今では、「ワーラーナシ」と呼ばれる「ベナレス」を訪れて、ヒンヅーの儀禮が極まると云う「ガート」に吹く風を、感じてみたいものである。さらに、ガンジスは火葬の河でもある。三島は書く。

川風は死に、あたりの空気には息の詰りさうな暑気が澱んでいた。そしてベナレスではどこでもさうであるやうに、静寂の代りに喧騒が、人々のたえまない動き、叫び聲、子供たちの笑い聲、讀誦の聲などが、そのガートからも渾然ときこえてきた。・・・焔は時には概ね白煙に包まれ、煙のあひだから火の舌をひらめかせた。寺の露臺へ吹きあげられる白煙が、暗い堂内に生物のやうに逆巻いてゐた。

マニカルニカ・ガートこそは、浄化の極點、印度風にすべて公然とあからさまな、露天の焼場なのであった。しかもベナレスで神聖で清浄とされるものに共有な、嘔吐を催ほすやうな忌はしさに充ちてゐた。そこがこの世の果てであることに疑ひはなかった。(pp. 68-69)

そのベナレスの「印度風にすべて公然とあからさまな」火葬も眼に焼き付けて、この世の果てを感じるのも、印度行のポイントであろう。この世に生きるものすべてがたどり着く、神聖で清浄で、嘔吐を催ほすやうな忌はしい「この世の果て」なのであろう。

酒の酔いが回ってくるにしたがって、未だ見ぬベナレスのガートが眼に浮かんでくる。死者が蘇ったかのように、炎の中で腕を振り上げる様が見える。先年訪れたネパールでも、同様の光景に接したようにも思うが、酔眼朦朧としてその真偽はなんとも覚束無い。

「やっぱり、最初はカルカッタ、ですか？」
「うん。ガンジス河、見たいからな。けど、今は『カルカッタ』って云わへんねん」
「へえ、どない云いますのん？」
「『コルカタ』、やて。植民地時代の呼び名から、現地の名前に戻す云うこと」
「なるほど」
「けど、ややこしい」

¹⁹ 三島由紀夫(1970)「暁の寺」東京：新潮社。

ベナレスも「ワラーナシ」と云うのだそうだし、印度映画のメッカ、「ポリウッド」²⁰と呼ばれる印度のハリウッド、ボンベイ²¹は、ムンバイ。



CIA Factbook より²²

「マドラス・チェック²³で有名なマドラス²⁴は、チェンナイやて」
「へえ、ややこしい。けど、マドラスは印度やったんですね」

²⁰ ポリウッド：映画産業の盛んなインド西部の都市ムンバイ（旧称ボンベイ）のこと。ボンベイ（Bombay）を、映画産業の盛んなアメリカの都市ハリウッド（Hollywood）になぞらえた。Bollywood .

<http://blog.melma.com/keyword/%A5%DC%A5%EA%A5%A6%A5%C3%A5%C9>

²¹ ボンベイ【孟買】(Bombay)インド西岸中央部の港湾都市。本土に近接する小島に位置し、西インドの商工業、金融、交通の中心点。一六六一年イギリス領となりインドの門戸として発展した。正式名称、ムンバイ。【SuperNipponica2003】(C)小学館

²² <http://www.cia.gov/cia/publications/factbook/geos/in.html>

²³マドラス チェック【madrass check】インドのマドラス地方産の、大柄格子縞の綿織物。[大辞泉 提供：JapanKnowledge]

²⁴ マドラス Madras インド南部、タミル・ナド州の州都チェンナイ Chennai の旧称。イギリス植民地時代より長くマドラスとよばれてきたが、1997年に古来の呼び名であるチェンナイに名称を変更した。チェンナイ 【SuperNipponica2003】(C)小学館

「そうや。けど、昔のアイビー・ルック²⁵はマドラス・チェックのシャツに綿パンが決まりやった」

「紅柄²⁶格子のベニガラも、印度から来たんですてね？」

「うん、紅柄、弁柄は、ベンガルや」

「ベンガルには、今もあんな粹な赤、あるんですかね？」

やはり、現地に行って確かめてみるしかないようである。印度は遠いが、その遠いガンジスから、こっちに向かって風が吹きはじめたようである。ここは、心を決めて、「印度風にすべて公然とあからさま」で、「神聖で清浄で、嘔吐を催ほす忌はしさ」を、じっくり味わってみたいものである。

「今度こそ、連れてっておくれやす」

「ええ？」(Saturday, October 9, 2004)

²⁵アイビー ルック (Ivy look 和)アメリカ東部8大学(アイビー リーグ)の学生の間で流行し、一般化したスタイル。背広の肩はなで肩,ウエストは絞らずにずんどう型,襟幅は細く,3つボタン。ズボンは細く直線的。アイビー スタイル。【新世紀ビジュアル】

²⁶ ベンガラ【弁柄・紅殻】(ポルトガル Bengala インドの「ベンガル」で産出したところから) 1 黄みを帯びた赤色顔料。酸化第二鉄を主成分とする。安価で着色力・耐久性が強い。塗料、ゴム、油絵の具の顔料、ガラスや金属板の研磨材として用いられる。ベにがら。鉄丹。代赭。 2 「ベンガラじま(- 縞)」の略【SuperNipponica2003】(C)小学館

ライブドア？ 楽天？ それとも....

e-dream-s 副代表理事 中川 房代

プロ野球の新規参入問題。

日頃スポーツにはあまり興味がない私だが、今回の日本のプロ野球の球団合併・新規参入の問題²⁷には注目している。

選手会²⁸や古田敦也選手会会長がどんな戦術で対応していくのか、どんな言葉で語るのか、ストは決行されるのか、などテレビのニュースを見ていた。結局、ストは決行され、近鉄とオリックスの合併は覆されることはなかったが、新規参入については検討が始まることとなった。

この問題をめぐっては、いろいろな切り口での論議がある。

世論の8割を味方につけた選手会の勝利、古田会長の姿勢や言動への共感、プロ野球球団の持つ保守性、巨人を中心とした大都市中心主義から仙台など地方重視への方向転換、日本のスポーツ・文化のあり方、等々。

が、私の関心は、新規参入企業（球団）の決定に関わる判断基準とプロセスだ。

先日10月6日、プロ野球参入の第1回ヒアリングが行われた。14日には2回目のヒアリングが開かれ、11月2日のオーナー会議で参入球団が正式に決まる見込みだという。発表された審査項目は6つ。

プロ野球への新規参入を申請しているライブドア²⁹、楽天³⁰について審査する審査小委員会(委員長=豊蔵一セ・リーグ会長)の初会合が30日、東京都内であり、両社の財務状況の分析を監査法人に依頼した。審査項目として(1)参加申請の妥当性や球団経営の継続性、安定性、発展性(2)野球協約との整合性(3)専用球場の施設能力、野球観客の需要(4)選手、監督の確保見通し(5)親会社と球団の経営状況の分析(6)公共財としてふさわしい企業・球団であるか、の6項目を設定した。(9月30日³¹)

また、ライブドア、楽天の2社から公表された「項目別アピール点³²」は、(1)球場改修、(2)収入源、(3)選手等補強、(4)職員確保、(5)観客動員、(6)その他、の6つ。

²⁷ 例えば、朝日新聞 asahi.com ニュース特集「球団合併問題」

<http://www.asahi.com/special/baseballteam/> を参照

²⁸ 「日本プロ野球選手会(JPBPA) Japan Professional Baseball Players Association」

公式ホームページ <http://jpbpa.net/index.htm>

²⁹ ライブドア <http://corp.livedoor.com/>

³⁰ 楽天 <http://www.rakuten.co.jp/info/>

³¹ 「プロ野球新規参入の審査開始 監査法人が2社の財務分析」 asahi.com ニュース特集「球団合併問題」

<http://www.asahi.com/special/baseballteam/TKY200409300293.html> より

³² 2社の項目別アピール点：西日本新聞 The Nishinippon WEB 10月7日

http://www.nishinippon.co.jp/news/2004/p_gappei/ より

その他にも、「世論」というものがある。あるインターネット調査³³では、宮城県民の約7割がライブドア支持だという結果も出ている。

2社の項目別アピール点

ライブドア		楽天
<ul style="list-style-type: none"> 2005年8月までに30,000人収容に改善 <ul style="list-style-type: none"> 内、外野席を改修 内装の劣化を補修(記者席や売店など) スコアボードの電光掲示化 個別シートを内野席に設置 最低で2億円を準備(新設分) 球場設備に総額約40億円の投資見込み 	球場改修	<ul style="list-style-type: none"> すべて2005年度開幕までに完了予定 <ul style="list-style-type: none"> 当初は23,000人収容とし2006年度中には28,000人収容 内、外野席を改修 同業を拡張 内野席下にブルペン設置 スコアボードの電光掲示化 バックネット裏に両よけを設備計画 球場設備に32億円の投資見込み
<ul style="list-style-type: none"> 巨人との交流試合(3試合)で2億5000万円 ローカル中継で400万~500万円(1試合)の放送権利 衛星放送での収入見込む 得率的なインターネット配信見込む(約1億円) 当初はスタジアム広告費として2億円、スポンサー企業を募る 	収入源	<ul style="list-style-type: none"> ほぼ全試合をテレビ中継 試合のインターネット配信を計画(290円×13,000人) ローカル局(地上波)と契約の意向 衛星放送中継による収入確保 広告収入で11億5000万円 スタジアム広告4億円、メーンスポンサー(6億円、地元企業1億5000万円)
<ul style="list-style-type: none"> 分配ドラフト、新人ドラフトに参加希望 シーズン当初は最大88選手保有 分配ドラフトで40人、新人ドラフト4~6人、FA2人、外国人4~5人、戦力外選手10人程度 元ヤクルト、阪神のオマリー氏が監督の最有力候補 選手年俸総額20億円 別枠でFA選手に5億円 	選手等補強	<ul style="list-style-type: none"> 拡大ドラフトを期待 分配ドラフトを最優先とし、当初は87選手保有 ゼネラルマネージャー(GM)に人選は一任 監督は10月中旬までに決定 選手年俸総額22億円 外国人は別枠で5億円
<ul style="list-style-type: none"> GMと副GMを確保 グループの社員と地元雇用で運営 既存球団で経験のある職員に声掛け完了 	職員確保	<ul style="list-style-type: none"> GMにキーンアト氏が内定 楽天社員と地元採用を半半ずつ採用 実方(打撃投手やブルペン捕手などは10月中旬に確定) 合併球団から選れた職員を雇用
<ul style="list-style-type: none"> 来季は1試合平均29,000人と予想 2006年度以降毎年2,000人増見込む おとな1枚内野席2,500円、外野席1,700円と設定 	観客動員	<ul style="list-style-type: none"> 来季は1試合平均15,000人と予想 年間シート4,000枚 年間自由席3,000枚 当日券(前売り含む)8,000枚
<ul style="list-style-type: none"> パ・リーグ参入を希望 赤字でも長期保有 本社が種でん(100億円もOK) 2軍施設は仙台市内の社会人施設もしくは静岡や四国も検討 年俸の一部に自社株購入権(ストックオプション)を導入 来季は最下位の回数が目標 仙台市内に社長がマンション購入を視野 	その他	<ul style="list-style-type: none"> パ・リーグ参入を希望 赤字でも長期保有 現会社が300億円準備あり 2軍施設はJ.T.のものを借りるか買収 来季は勝率5割以上目標 バッテリーの能力がポイント

何をどう評価するのか？何を重視するのか？経営体質の健全性なのか、提出された収支計画の妥当性なのか、球団の人材、世論、地域貢献度なのか？大きな社会問題にもなり、同じ仙台を舞台に選んだ2つの企業、それだけ決定に際しての選考理由が明確にされるべきだと思う。

11月に出される決定が、市民の納得できるものになるのかどうかはまだ分からないが、選考する側に選考基準を発表させ、公開性と透明性の確保に努めると言わしめているということはとても大きなことだと思う。

また、この問題をきっかけに、スポーツのあり方を考え、四国や東北での独立リーグの構想³⁴、2軍のホームや、フランチャイズ球場の構想など新たな提案が出てきているのもいい。特に、これからは、地方の時代。スポーツに限らず、地方が頑張っていかなければと思う。

地域に根付いたスポーツならNPOの出番。日本国内のスポーツに関わるNPO法人はどのくらいあるかははっきり分からないが、NPO法に定められた活動分野「学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動」での認証数は5449団体³⁵(2004年6月末現在)。そのうちスポーツに関連するNPOは、ざっと見たところまだそんなに多くない。スポーツは、今後NPOが取り組める可能性の大きな分野だと思う。

とにかく、今回のヒアリング、11月の決定がどうなっていくのかが楽しみなスポーツの秋。私も何かスポーツしてみようかな？

³³ 「宮城県民はライブドア派 インターネット調査会社調べ」10月7日

Yahoo! ニュース <http://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20041007-00000207-kyodo-soci> より

³⁴ 「四国で独立リーグ構想 元オリックス監督の石毛宏典さん」9月29日

<http://www.asahi.com/special/baseballteam/OSK200409280048.html> より

「新球団に人材を 独立リーグ構想、東北でも」10月4日

<http://www.asahi.com/special/baseballteam/TKY200410040115.html> より

³⁵ 内閣府・国民生活局「NPOホームページ」<http://www.npo-homepage.go.jp/data/bunnya.html> より

History repeats itself.、だから歴史を学ばねばならない。体験や経験でも次第に記憶から消えてゆく。都合の悪い事は意識的に忘れようとする心理がある。Unilateralism は「歴史を学ばない」と同義だろう。そして折角の体験や経験も敢えて無視しようとする。“I have to protect my country”、これは世界唯一の超大国の大統領が選挙戦で連発する科白だが歴史とか過去の教訓を超越しようとする殺し文句である。

今年の日露戦争の 100 周年にあたる。子供の頃よく歌を聞いたり、絵本で読んだりした。当時でも昔の事と思っていたから今の若い人にとっては尚のこと読んだ教科書の一齣に過ぎないかも知れないが日本史を俯瞰する時、日露戦争は重要な節目だったのである。東洋の小国が欧州の大国に勝ったということで世界中の弱小国民が喝采した。講和条約は米国東部のポーツマスで結ばれ、条約文は英語とフランス語、多くの条文が満州権益の取り決めに割かれている、など決して弱小国が喝采することでもなかったのだが、大日本帝国としては日清戦争に続いての勝利、あと 10 年経つと第一次世界大戦でまた戦勝景気、ともう立ち止まりも後戻りも利かない one-way street を走り続けることになったのだ。

母方の祖父が遺した自伝メモが永いこと私の手元に有った。敗戦後の物資難で粗末なわら半紙（これも死語か . . .）にインクで書かれ、紙こよりで留めてあった。初孫としては後世のためにせめてワープロに打ち直しておこう思ったのだが判読出来ない文字が沢山有った。其のうち母が逝ってしまった。唯一の叔母が生きているうちに聞いておこうと思いつつまた月日が経ち、いよいよ待った無しになってきた。祖父は上京して中学から海軍機関学校に合格、海軍将校を暫く勤めてから、海軍大学を出直して昭和 10 年（1935）中将を以て退役した生粋の職業軍人だった。日露戦争の日本海海戦（学問上は The Battle of Tsushima と言うらしい）で東郷元帥の旗艦「三笠」に乗って戦ったとは母に聞いた事だったが、第 2 次大戦敗戦前はさぞ名譽だっただろう、何分東郷元帥は其の後神に奉られたのだから。米軍の空襲のせいで戦後同じ屋根の下で暮した時期も有り、私は戦後の背中を落とした祖父をよく憶えている。庭仕事や器用な手仕事以外は常に机に向かい古今東西の書に親しんでいた。私の数学、習字、図工の宿題はいろいろ手伝って呉れた。海軍の調達業務で英国に 2 年間駐在、その間ロンドンの家庭にホームステイしていたから英語も出来た。

この物静かな勉強家が何故職業軍人の道を選び破滅の one-way street を走るようになったのか一番興味が有った。自伝メモに依ると飛驒の田舎で小学校 6 年生の少年は「日清戦争実記」という月刊誌を読んで胸をときめかせた。中学に進むと「20 世紀における日本の将来は海洋にあり」というような説を読んで海軍志願を決心したという。単純な発想に驚くが日本がペリー提督の恫喝外交により開国させられてから約 50 年しか経っていない時分のことである。田舎で 7 人兄弟の末っ子となれば軍人以外に出世の道など無かったのだろうが蓋し少年に与えるメディアの影響力である。当時の日本に實力だけがものを言う career が存在したというのも事実である。開国後の日本は日清戦争に勝って巨額の賠償金と大陸の権益を獲得し旨い味を占めたが、欧州の大国相手の日露戦争ではそうは行かなかった。数年前に公開された日本海海戦の映画など見ていないが実際の戦闘は弱冠 23 歳の新任士官だった祖父の記述を読むと海戦が始まる前に味方艦同志で衝突したり敵の機雷に触れてしまったり、余り格好の良くないことも有った様である。然し、兎も角日本海海戦には勝って日本は帝国主義国家クラブの切符を手に入れ、祖父も格別の論功行賞にあずかったのだった。

この後大正デモクラシーと言われるあだ花が咲いたことも有ったが日本の基本路線は確定済みとな

った。元を言えば開国を力で強制したのだがアジアの成り上りに同等の権益は許さないという白人帝国主義國の本性も次第に露骨になってきた。ロシア帝国は日露戦敗戦が痛手となり、次ぎの第一次大戦でボルシェビキ革命が起こり崩壊した。祖父は第一次大戦末期に英国に駐在、2年間のことだが日-英同盟の最中の高級軍人として大変良い思いをした。家族は日本に残しており、週末に独り倫敦の古本屋、古美術商を漁った日々を懐かしく思い出している。その思い出の品々は26年後の第2次大戦の空襲で自宅と共にすべて灰燼に帰した。それだけでなく、戦後は職業軍人あがりとして第二次大戦には関与していなかったに関わらず世間から白い目で見られたり、63歳にして筍生活の苦勞も強いられた。自伝メモには戦後の世情の嘆く部分が有り、自ら目の当たりにした第一次大戦後のドイツ、白系ロシアの境遇に我が国がなろうとは夢想だにしなかったと驚きを記している。日露戦争の勝利無かりせば日本の命運はどのように変わっていたらうか？祖父が癌でこの世を去ったのは1956年だったがそれは「もはや戦後ではない」という言葉が流行った年であった。

お知らせ

<募集> 「@aglance・海外写真」へ写真提供を！

引き続き、画像・写真の提供をお願いします。

・写真及びデータの送付先（メールまたは郵送で）：

山本 美貴（やまもと みき）

〒573-1149 大阪府枚方市牧野北町6-17-302

<mikiyamamoto@e-dream-s.org>

・問い合わせ先：辻編集長<tsuji@e-dream-s.org>まで

<募集> 「インドツアー準備委員」に応募を！

インドツアー準備委員長・顧問 井川 好二

ACROSS会長 河野 良子

e-dream-s代表理事 辻 莊一

「ACROSS アジアツアー2004 DISCOVER Russia」に続く、「アジアツアー2005」の候補地として「インド」はどうかという案が出ています。

そこで、「インドツアー準備委員」を募集し、「準備委員会」を発足させ、「インドツアーが適切かどうか」「2005年に実施が可能かどうか」の判断をするための情報収集をしていきたいと考えています。

2004年末には、準備委員会によるインドへの下見ツアーを実施（予定）し、その材料をもって、2005年1月に、インドツアーを実施するかどうかを決定する予定です。

その結果、正式にインドツアーを実施することが決定すれば、実行委員会を発足させ準備にあたります。しかし、ツアーを実施しないという決定がなされる可能性も考えられ、その意味で、実施決定まではACROSS・e-dream-sの正式な事業にはなりませんので、準備委員の下見についても自費での参加をお願いすることになります。

アジアツアーは、1987年に始まり、東南アジアを中心に今までに多くの国々を訪問してきました。今夏はロシアに行ってきました。日本の隣国であり、歴史的にも繋がり深い国でありながら、ロシアは「アジア」の一部でもあることを今までほとんど意識してこなかったことに、行って初めて気づいたような思いがしました。ACROSSの「アジア」の地図には、まだ大きな空白の地域があります。それは、一大文化圏を持つ「インド」です。

9月の初めにロッド・エリス先生が大阪に講演に来られ、食事を一緒にする機会がありました。先生は、以前インドに行かれたことがあり、その時に滞在したカルカッタの施設を紹介して下さいました。ホームページで見ると、なかなかよい施設のようです。

The Tollygunge Club <<http://www.thetollygungeclub.com/intro.htm>>

この施設も含め、今後、情報収集を進めていきたいと思えます。

奮って、「インドツアー準備委員」にご応募下さい。

併せて、インド情報、特にインド人のお知り合い情報もお寄せ下さい。

勿論、インド以外にも候補地案があれば、同時に検討していきます。

「ここがお薦め!」「この国・地域ならお任せ!」というご意見もお待ちしています。

もし、インドツアーを実施しないという決定がされることになれば、この下見ツアーがインド訪問の最後のチャンスになるかもしれません。

以上、よろしく申し上げます。

インドツアー準備委員 募集要項

「インドツアー準備委員」を募集します。「準備委員長」は井川顧問です。

1. 募集人数：若干名～10名程度
2. 応募資格：
 - (1) ACROSS会員、及びe-dream-s会員、または近日中に入会する予定の人
 - (2) インドツアーに関する準備（インドやツアーに関する情報収集、インドでのコンタクトパーソン探しなど）を頑張ってみようという意欲のある人
 - (3) 12月末のインドへの下見ツアーに参加できる見込みのある人<自費にて>
(下見ツアーの期間は未定。下見する地域や参加者・フライト等により後日決定。)
 - (4) ACROSS会長、e-dream-s代表理事、および準備委員長・顧問の承認する人

* * (3)の下見について * *

「準備委員は下見に行くこと」「下見に行く人は準備委員」の2点を基本と考えています。ただ、下見は3ヶ月先のことですので、準備委員に応募する時点で「ほぼ確実に下見に行ける」とは言い切れない場合もあるかと思えます。下見の重要性を理解し、応募時点で下見に参加の意思のある人は（最終的には行けなくなる可能性があっても）、是非ご応募下さい。

3 . 応募締切 : 10月31日(日)

4 . 応募・問い合わせ先 : 中川<nakagawa@e-dream-s.org>まで

編集後記

「インドツアー」で何か手伝ってもらえないかと、メールを送っていたインド人の友人から、たった今、返信が届いた。私がイギリスで滞在していたフラットの隣の住人で、大学院で英語科教授法を学んでいた人だ。彼女は、現在、ニュージーランドで英語を教えていると言う。本人は「中流」と言っていたが、料理をする人、家の中の家事をする人、庭の手入れをする人、息子の世話をする人、と多くの召使いに囲まれて生活していた彼女は、イギリスでの一人暮らしは、初めは何をしていいかわからなかったという。そんなにたくさんの召使に囲まれた生活に驚く私たちに、先進国では24時間何でも手に入り、スーパーマーケットは召使と同じ存在だと言ったのが印象的だ。フレンチやイタリアンは、大切なお客様が来たときの食事で、召使には作ることができないので、彼女が作っていたそうだが、いつも召使が作ってくれるインド料理は、自分では作ることができないと、イギリスではレトルトのカレーをスーパーで買っていた。ニュージーランドでも、レトルトのカレーを食べているのだろうか。(塚本美紀)